

目録 研究所だより

楠野 晋一

この度、協同総合研究所の事務所は労協連の本部移転にともない光文社ビルから池袋東口のISPタマビル7階に引っ越しをいたしました。お陰様で無事に引っ越しが終わりましたこと、お伝え申し上げます。

10月27日からの事務所は東口から徒歩5分と駅から近くなり、研究所のスペースとしても以前より少しだけ広くなったという感じがします。これまで慣れ親しんだ光文社ビルに対する思いもありますが、気持ちを新たに取り組んでまいりたいと思います。

さて、4月から取り組んでいる厚生労働省の社会福祉推進事業「貧困などによる子ども・若者を対象にしたセーフティネットの現状とその課題に対する提言に向けた調査研究」では、居場所のない子ども・若ものを対象とした援助事業の先進事例の検証から、そこにある課題の解決に向けたきめ細かいセーフティネットの運用、新しい視点のセーフティネットの創出、貧困の連鎖の予防策に関する調査研究をおこなっています。

これまでの調査地は、「青年就労支援ネットワーク静岡」、「ゆめ・まち・ねっと」、「フリースペースたまりば」、「世田谷サポステ」、「山科醍醐こどものひろば」、「かしわヴィレッジ」、「子ども村・中高生ホッとス

テーション」、「学び塾猫の足あと」、「十勝びばっと」を対象地としています。

10月27日には中間報告会を開催し、委員の先生方から調査報告をいただきました。

こうした調査を通して、先生方からは子ども・若者に不足しているのは専門的な支援以上に地域の大人との「ふつう」の人間関係、セーフティネットの構築は地域づくり、地域の掘り起しと切り離せない、地域の達人たちと出会い企画から参加することで若者の力がひきだされる、地道な地域への働きかけと、活動を繰り返す中から頼られる若者集団へといった大人との関係やその関係の中で若ものが力を発揮していく大切さ等々をお話しいただきました。また、ボランティアに参加してくる若者には、本人が問題を抱えている人も多いが、子どもたちへの支援や支援員とのコミュニケーションによって成長しているといったように若ものが若もの同士の関係の中で成長していくことの大切さも提案されました。

以上のように、本研究事業は多くの委員の先生方にご尽力頂きまして進んでいます。まだ、中間地点ではありますが、この場を借りて御礼申し上げます。今後とも、ご指導のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。